

# 戦争と無権利の時代、 反戦と主権在民を掲げ闘いに<sup>たお</sup>斃れた 若き女性の真実の物語

日本は戦前、絶対的天皇専制政治のもと国民は天皇の臣民(天皇の家来)とされ、貧困と無権利の状態に置かれていました。

支配体制を強める絶対的天皇専制政治は中国への侵略を本格化し、1925年に治安維持法を成立させ、共産主義者、社会主義者、労働組合・農民組合、知識文化人などを思想犯罪者として逮捕し拷問を加え弾圧したのです。

多くの若き社会活動家が治安維持法で命をおとしました。伊藤千代子もそうした活動家のひとりでした。

この映画は伊藤千代子をはじめ、この厳しい時代に社会変革への志をもち、必死に生きた人々の真実の物語です。

本映画は映画のリアリズムを追求し、製作者達は真摯な気持ちで作品に対峙し撮影されました。

伊藤千代子役にはオーディションで選ばれ本作品で映画デビューする新人・井上百合子。

その他主要なキャストには、窪塚俊介が複雑な革命家、浅野晃を見事に演じているほか、土屋文明に金田明夫、そして石丸謙二郎が冷徹な特高を演じています。

また、東京女子大の学長、安井てつ役で竹下景子が出演。その他、若手新人女優が多数出演。

監督には、映画「校庭に東風吹いて」等製作した社会派監督桂壮三郎がメガホンをとっています。

日本 / 125分 / カラー・ビスタビジョン作品  
©2022映画「伊藤千代子の生涯」コーポレジュアル企画

## 小林多喜二と伊藤千代子 ～時代が結んだ青春～

1928(昭和3)年、日本で初めて25歳以上の男性のみの普通選挙が行われました。このとき伊藤千代子は、北海道から出馬する労農党の候補者・山本懸蔵の選挙資金を用立てるなど活動に参加しました。

一方、小樽では小林多喜二らが「われらの山懸」を迎え、たたかひの火ぶたが切られました。選挙応援の機会が巡ってきた多喜二は羊蹄山の麓へと吹雪について突き進み「俺たちの運動は何代がかりだなあ」と…。(小林多喜二『東俱知安行』より)

同時代に、小林多喜二と伊藤千代子は目に見えない糸で結ばれながら、社会変革への息吹を胸一杯に吸うのでした。

二人が、もし特高警察の弾圧で生を絶たれなければ、どんなに素晴らしい人生を切り拓いていったことだろう。



小林多喜二  
(1903～1933年)



伊藤千代子  
(1905～1929年)

## 『婦人論』読んで、 ジェンダー平等へのめざめ

「女が勉強して何にならずか」という風潮の中で、向学心に燃えた千代子は、諏訪高等女学校で土屋文明から薫陶を受け、仙台・尚綱女学校では自由・平等の新しい社会思潮にふれ、そして臨んだ東京女子大でベーベルの『婦人論』に出会い、「これだ」と感動した千代子は、郷里の友に書き送る一。

「女の人が覚める時、男子の催眠術から、  
そして自己の自己に対する  
催眠術から覚める時、  
どんなにすばらしい世の中が  
展かれて来でしょう」

(1925年12月発信の手紙から)

賛同団体 | 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 | 日本国民救援会 | 日本婦人団体連合会 | 婦人民主クラブ | 新日本歌人協会  
全日本年金者組合 | 全日本年金者組合東京都本部 | 全日本民主医療機関連合会 | 宇治・長野・大阪・東京各山宣会

